

モニュメントの完成時期1年延期



モニュメント完成イメージ

「市民の会」は、軍都として誕生した鈴鹿市の歴史を後世に伝えていこうと、モニュメントを旧鈴鹿海軍航空隊跡地の市防災公園内に建立することにしてはいますが、その完成時期が予定より1年遅れることになりました。当初、来年（2014年）3月の完成予定だったのが、再来年（2015年）3月になったものです。この防災公園はUR（都市再生機構）が造り、2015年3月に鈴鹿市に引き渡す予定で、鈴鹿市から「せっかくできたものがいたずらされないよう、引き渡し時に完成するようにしてほしい」と要請されました。

鈴鹿海軍航空隊跡地は戦後、電電公社（その後民営化してNTTに）に払い下げられ、研修センターとして使われていました。3棟の巨大格納庫がつい最近まで残っていましたが、2011年3月、取り壊されてしまいました。私たちは鈴鹿市にもあった戦争の記憶と不戦への思いをこめて象徴するモニュメントの建立を計画。

市内在住の彫刻家、三村力先生に制作をお願いし、鈴鹿市から用地の提供を受けて防災公園内に造るものです。白御影石の4本の柱の上に、らせん状のステンレスパイプを載せたデザインで、完成時の大きさは幅4m、奥行き2・6m、高さ6・4m。三村先生は、「地・天」と名付け、「忘れてはならない過去の時間を思いつつ、未来に向かって一步を踏み出していく想いをこめたモニュメントに」と話しています。

建立費は市民の募金でまかなうことにしていますが、会員のみなさまや市内外の多くの方々の賛同を得て、10月現在、目標額400万円の半分近くが集まっています。完成時期が1年伸びましたので、目標達成に向け、引き続き、募金をお願いしていきます。



市民の会総会で講演する三村先生

関の地下工場など見学

～亀山市内の戦争遺跡をめぐる～

10月5日、久しぶりに戦争遺跡の見学会を実施しました。今回は岩脇彰先生の案内・解説により、初めて亀山市内の戦争遺跡をめぐりました。20人の参加者のほとんどが初めて見る遺跡で、感銘を受けたようでした。

【亀山の列車銃撃現場跡】

亀山エコーに集合。5台の車に分乗してまず訪ねたのは、亀山市天神の列車銃撃現場。1945年8月2日、亀山発鳥羽行き^の列車が米軍機の機銃攻撃を受け、40人近い死者が出たという現場です。

。岩脇先生の説明によれば、襲ったのは、硫黄島^{いおうじま}のアメリカ陸軍VII戦闘機集団に属するP51。ボイラーを破壊された機関車は亀山駅から約800^{メートル}離れたレンガ橋付近で停車。機関士は頭に傷を受け即死、機関助手も腹部に傷を受けて気を失いました。5両編成の客車も直撃され、車内は地獄のような惨状になりました。これまでに機関士を含む16人の死亡がはっきりしており、うち7人の名前が分かりましたが、9人が判明していないそうです。

岩脇先生が取り寄せた米軍資料によると、この日、3つの戦闘機群団がほぼ1時間おきに硫黄島から日本に来ており、最初に来た第15戦闘機群団が列車を襲いました。最後に来た第21戦闘機群団(46機)は鈴鹿、亀山、明野の各飛行場を目標にしていたが、到着した14時5分には雲が広がっていて目標を発見できず、目標を変えて岡崎、豊橋を攻撃したということです。「もし雲がなければ、鈴鹿と亀山にもっと深刻な被害が出ていた」と岩脇先生。



亀山列車銃撃現場



関地下工場跡

【鈴鹿海軍工廠関地下工場跡】

次に、空襲を避けるために、鈴鹿海軍工廠^{こうしやう}が関町に造った地下工場跡を見学しました。観音山(標高224^{メートル})の西側の谷沿い両側に7本ずつ、計14本の地下壕^{ちかごう}がありました。1943年に測量開始、1944年に工事開始、1945年4月に1本の地下壕で13^基の機銃の生産が操業しました。西側の7本は完成し、一部操業したのに対し、東側の7本はいずれも掘っている途中に敗戦になりました。操業していた1本は戦後、米軍の手で壊されて地下壕の入り口は分からなくなっていますが、あとは入り口をふさぐ竹格子がしてありました。谷の両側に約100^{メートル}にわたって続く穴の跡は、ちょっと異様な景観で、説明を聞かなければ、地下工場のための地下壕だったとは分かりません。

地下壕を掘ったのは朝鮮人労働者で、付近にたくさんの飯場があったこと、創業した工場の中は大変な湿気のうえ、空気が汚れていて体調を崩す人もいたこと、などの説明がありました。現在、珍しいコウモリが何種か生息しており、「研究者からコウモリの貴重な生息地と言われている」というエピソードも紹介されました。

【北伊勢陸軍飛行場】

最後に北伊勢陸軍飛行場関連の遺跡を見ました。同飛行場は亀山市能褒野町^{のぼの}と鈴鹿市広瀬町にまたがり、古河電工三重事業所や川崎小学校は戦後、その跡地の一角に立地したものです。川崎小学校の位置に本部(兵舎)があり、正門と噴水池が残っています。1941年7月26日付「第二期下士官候補者卒業記念」碑も噴水池前に移築されていました。本部の北側に9棟の格納庫が並んでいて、いまでも残っている木造格納庫のコンクリート基礎を見学しました。岩脇先生の説明では、同飛行場は1938(昭和13)年から用地買収が始まり、1941年に開設されました。開設当初は各務原陸軍飛行学校(岐阜県)の分教所でしたが、1943年4月1日から明野陸軍飛行学校の分教所になりました。戦況の悪化とともに1944年6月、明野教導飛行師団となって、学校から実践部隊に変わります。同年秋からフィリピンに向かう特攻隊の編成が始まり、北伊勢陸軍飛行場も主な訓練地になります。特攻訓練の全容は不明ですが、沖繩戦に出撃した第20振武隊、第22振武隊がここで訓練をしました。

飛行場の北方(鈴鹿市迫分町など)には陸軍樁秘匿飛行場が造られ、2つの飛行場は誘導路で結ばれ、飛行場群として本土戦の特攻準備がされました。特攻用飛行場では、飛行機は格納庫に収容されず、周囲に造られた掩体^{えんたい}に隠されました。2つの飛行場の周辺には70近い土製掩体が造られていました。コンクリート製掩体も1基、鈴鹿市三畑町^{みはた}に造られており、そこへも足を延ばして見学しました。これは完成前に敗戦となって使われることなく、いまは農家の倉庫になっています。国の登録文化財になっており、初めて見る参加者はその独特な構造物に驚いていました。



北伊勢陸軍飛行場兵舎跡(川崎小学校)

見学会には鈴鹿市江島町の高橋倫子さんと長男の小学4年、永和君が参加し、感想文を届けてくれました。

最高の時間をすごせました

ぼくは10月5日に戦争いせきの見学会に行った。ぼくが見たことのない物もあり、びっくりした。今回の見学会の中では最年少でした。きんちょうしましたが、みなさんがとてもやさしく教えてくれたおかげで、しっかりと勉強できてとても楽しく見学することができました。そして、いろんな方から本や資料・地図などをもらいました。

ぼくは地元にあった戦争の事についてもっと知りたいと思いました。見学会には戦争に行った人や戦争時代のことをよく知っている人がいっぱいいて、みなさんからぼくが知らないことや知っていたことでもさらにくわしく教えてもらったので、ぼくは最高の時間をすごせました。

かといって戦争をしたいわけではなく戦争のいせきや物にきょうみがあり、戦争はなぜする

のか知りたかったのです。そしたら、なぜかむ中になってしまい、そしたら見学会の中ではみなさんから「戦争少年」とよばれるようになりました。

みなさんはすごくぼくにやさしくしてくれました。本や資料は、これからも大切に使います。会のみなさま、これからもよろしくおねがいします。

今回の戦争いせきの会におさそいいただき、ありがとうございました。また、次回もよんでください。

(鈴鹿市立旭が丘小4年、高橋永和)

親子で貴重な体験ができました

拝啓

秋冷の候、皆様ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

その節はさまざまな戦争遺跡をご紹介くださり、ありがとうございました。普段見ることができないところを実際に見ることができ、とても興味深く思いました。

私自身、鈴鹿市で生まれ育ちましたが、これまでこの地域にあった歴史をたどったことがありませんでしたし、地域に今も戦争遺跡が残っていることなど全く知りませんでした。そのため、子どもの学習のためと思って参加させていただいたのが、私自身も大変勉強になりました。子どもにとっては、今の時代背景からすると、やや理解するのに難しいところもあったかと思いますが、かみくだいてやさしく丁寧に説明していただいたので、帰りの車の中でも「こうやったんかな？ああやったんかな」と話題は尽きませんでした。本人なりに思いをめぐらせて一生懸命に受け止めようとしている子どもの姿を嬉しく思いました。

親子で今回のような時間を共有できたことはなにより貴重な体験となりました。子どもたちが参加できる機会がこれからもっと増えていくといいなと思いました。

戦争遺跡めぐりには参加されていた方のお歳も性別もご職業もお住まいも、また参加された理由も様々だったので、それぞれの方からお話を聞かせていただくことができたことも楽しかったです。当時の様子を知る人が語る内容は大変興味深かったですし、また一方では私たちのように初めて参加された方もみえて安心しました。機会がありましたら、また参加したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

敬具

(鈴鹿市江島町、高橋倫子)



鈴鹿海軍工廠関地下工場跡



北伊勢陸軍飛行場格納庫跡

夏休みの自由研究に戦争遺跡

高橋倫子さんから8月、夏休みの自由研究で戦争遺跡について調べているので、話を聞かせてほしいと電話をいただきました。さっそく、白子サンズの中にある「NPO すずかのぶどう」のテーブルをお借りして、中学1年と小学4年の姉弟、お母さんに市民の会の成り立ちや鈴鹿市の戦争遺跡などについて話をさせていただきました。すでに、市内の戦争遺跡を巡って写真を撮り、いろいろ調べてみえました。その真剣な学習意欲に頼もしさと嬉しさを覚えました。

最後に、格納庫は取り壊されましたが、戦争の記憶と不戦への思いを込めたモニュメントの建立に取り組んでいることを話したところ、永和君が「ぼくのお小遣いから募金する」と言ってくださり、お姉さん、お母さんも「私たちも」と募金に協力してくれました。若い世代にどう伝えていくかが大きな課題になっているとき、この姉弟と若いお母さんの存在は私たちに大きな希望を抱かせてくれます。10月5日にあった見学会に永和君とお母さんが参加され、感想文もお寄せいただいた次第です。

(加藤二三子)



風の街文化祭でパネル展

10月27日(日)第8回風の街の文化祭が鈴鹿ハンターで開催され、市民交流広場のセンターコートを会場にして、今年も戦争遺跡の写真・パネル展を開催しました。当日は天候にも恵まれ、店内は沢山の買い物客で賑わいました。市民ギャラリーや公民館等の来館者とは異なって、来店をついでに関心をもって見学していかれる若い人や親子連れ、高齢者の方など様々な層の人たちに幅広く見て頂き、終了時間が超えるほど大勢の方にご覧いただくことができ、地域のなかでの取り組みも大切であることを痛感しました。



戦争遺跡保存全国シンポ 岡山県倉敷市で開催

第17回戦争遺跡保存全国シンポジウムは8月17～19日、岡山県倉敷市で開催されました。倉敷市水島には1943年に三菱重工水島航空機製作所の疎開工場として建設された「亀島山地下工場」(全長2000かめじまやま米余の地下壕)が残っており、保存する会が文化財指定と活用を求めて活動しています。記念講演はドイツにある「ミッテルバウ・ドーラ強制収容所記念館」館長のヴァーグナー氏。「ドイツの戦争遺跡—犠牲者に想いを馳せて」と題して話されました。

市民の会から竹内宏行共同代表が参加。懇親会の席上で、昨年、鈴鹿市で開いた第16回三重県鈴鹿大会のお礼を述べるとともに、モニュメント募金のお願いをしました。来年は神奈川県川崎市の「明治大学平和教育登戸研究所資料館」を主会場に開催されます。

市制71周年記念 戦争遺跡写真展示会・講演会のご案内



陸軍第一航空軍教育隊弾薬庫(高塚)



陸軍第一気象連隊訓練風景(石薬師)

今年も市制71周年を記念して『講演と戦争遺跡の写真・パネル展』を開きます。鈴鹿川以北には北伊勢陸軍飛行場(広瀬町、亀山市能褒野町)に関連したコンクリート製掩体(三畑町・国登録文化財)、陸軍第一航空軍教育隊の諸施設跡(高塚町)などが今も残っています。これらの戦争遺跡から鈴鹿市が誕生したころに思いを馳せ、地域の方々と一緒に先達の労苦とともに平和や人権について考えたいと思います。

・後援 鈴鹿市教育委員会

・場所 鈴鹿市加佐登公民館 鈴鹿市高塚町1068-1 (Tel378-7422)
(加佐登小学校の隣です)

・内容

○写真・パネルの展示

2013年11月26日(火)～12月1日(日) (※閉館日は除く)

加佐登公民館(廊下壁面)

鈴鹿川以北に残る旧陸軍施設(戦争遺跡)の写真・パネルの展示

○講演会

- ・日時：2013年12月1日(日) 午後2時～3時30分
- ・演題：地域の方々と語る鈴鹿市の戦争遺跡(旧陸軍施設を中心に)
- ・講師：浅尾悟さん(白鳥中学校教諭)
- ・場所：加佐登公民館ホール(入場無料)

鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会

代表 加藤二三子、竹内宏行

〒510-0254 鈴鹿市寺家1-2-47

電話 059-388-6508

メール ta818hi@mecha.ne.jp

HP <http://www006.upp.so-net.ne.jp/asao/peacesuzuka.htm>